



TOHOKU
UNIVERSITY

東北大学大学院歯学研究科

歯学部

東北大学病院附属

歯科医療センター

NEWS LETTER

創刊号 2008.6



歯学研究科長・歯学部長
笹野高嗣

研究科長挨拶

平成20年4月1日付けで東北大学大学院歯学研究科長・歯学部長を拝命いたしました笹野高嗣でございます。皆様には常日頃お世話になり深く感謝しております。

さて、東北大学歯学部は昭和40年に設置され、43年が経過しました。その間、様々な変遷がありましたが、最近10年間でとくに大きな変化がありました。すなわち、平成12年には大学院重点化に伴う組織改編、平成16年には国立大学法人化に伴う様々な制度改革を行いました。法人化後の大学は自主的かつ自立的に運営することとなり、その使命のひとつとして社会との連携強化があげられ、地域社会と密着した活動が求められるようになりました。当研究科では、独立研究科として地域歯科医師会や同窓会と強く連携し、皆様からの御意見等を参考に運営することにより真に社会から求められる組織でありたいと願っております。その一環として、このたびニュースレターを定期的に発行することになりました。広報活動を活発に行い、「開かれた大学」として皆様の御期待に応えるべく地道な努力を続けていきたいと考えております。

皆様、今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。



歯科医療センター長
小松正志

歯科医療センター長挨拶

このたび4月1日付けで歯科医療センター長を拝命致しました小松正志です。皆様からの御協力をいただきたく一言御挨拶申し上げます。

当センターは昭和42年6月に開院以来、40年間、歯学教育および研究の現場として数多くの歯科医師や研究者を育成し、歯科医療の中核病院として社会に貢献してまいりました。平成15年10月には医学部附属病院との組織上の統合がなされ、平成19年2月に病床および手術室を東北大学病院（旧医学部附属病院）に移転し、名称を東北大学病院附属歯科医療センターと改め現在に至っております。平成22年には東北大学病院外来棟北側に新外来棟が完成し、当センターの全ての部門が移転する予定です。

最近の歯科医療界は、学部教育改革、卒後臨床研修の必修化、認定医、専門医制度の導入などの大変革の流れとともに、医療法の改正、過剰なまでの医療事故報道など厳しい時代の中にあります。これには国民の医療に対するクオリティー向上のニーズが背景にあると思われます。当センターでは、このような高度なニーズに応えられるよう鋭意努力を続ける所存です。

一方、医療機関を訪れる患者のニーズは多様化しており、ひとつの医療機関のみでは治療の完結が困難な症例も増えてきております。患者を中心とした医療機関間の連携は今後益々重要になると思われます。

新外来棟は3～5階が歯科部門となります。東北大学病院は特定機能病院に指定されており、歯科もその1部門となります。特定機能病院は紹介を受け受診することが基本とされ、効果的にご利用いただくためにも、皆様からの御紹介を宜しくお願い申し上げます。

東北大学歯学研究科・歯学部・歯科医療センターの現状

歯学研究科では、大学院重点化や国立大学法人化にともない、既存の講座制から大講座・小分野制に組織改編しております（平成12年）。また、歯学部附属病院は東北大学病院附属歯科医療センターと名称を改め（平成19年度）、それ以前に患者年令を基軸とした大診療科制に組織改編しております（平成14年度）。下記に、新たな分野名、診療科名等を記します。

歯学研究科	
研究科長	笹野高嗣
副研究科長（総務担当）	佐々木啓一
副研究科長（教育・研究担当）	菅原俊二
研究科長補佐	高橋信博
	笹野泰之
	小坂健

東北大学病院附属歯科医療センター	
センター長	小松正志
副センター長（総務担当）	川村仁
副センター長（教育担当）	島内英俊
センター長特別補佐	越後成志
センター長補佐	菊池雅彦
	小関健由

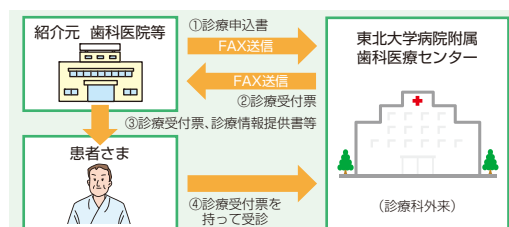
講座等	専攻分野等	教授
口腔生物学講座	口腔生化学分野	高橋信博
	歯科薬理学分野	若森春実
	口腔微生物学分野	田比古俊二
	歯内歯周治療学分野	島内英俊
	口腔分子制御学分野	菅原俊二
口腔機能形態学講座	口腔器官構造学分野	菊地正嘉
	口腔生理学分野	林治秀一
	口腔システム補綴学分野	佐々木啓一
	加齢歯科学分野	(兼)菊池雅彦
		(兼)越後成志
口腔修復学講座	歯科生体材料学分野	(兼)菊地正嘉
	歯科保存学分野	小松正志
	咬合機能再建学分野	(兼)佐々木啓一
		(兼)越後成志
	(総合歯科診療部)	菊池雅彦
口腔保健発育学講座	予防歯科学分野	小関健由
	小児発達歯科学分野	福本照子
	顎口腔矯正学分野	山本照子
	口腔障害科学分野	五十嵐薫
	国際歯科保健学分野	小坂健
口腔病態外科学講座	口腔病理学分野	熊本裕行
	口腔診断学分野	笹野高嗣
	顎顔面外科学分野	川村仁
	口腔外科学分野	越後成志
	歯科口腔麻酔学分野	(兼)越後成志
顎口腔創建学講座	顎口腔形態創建学分野	笹野泰之
	顎口腔機能創建学分野	鈴木治
連携講座	口腔腫瘍病態学講座（加齢医学研究所）	田村眞理
	新生体素材学講座（金属材料研究所）	後藤孝雄
	生体機能素材学分野	新家光
	生体再生歯工学講座（医工学研究科）	鎌倉慎治
協力講座	難治疾患・口腔免疫学講座（国立国際医療センター研究所）	小笠原康悦
	長寿口腔科学講座（国立長寿医療センター）	松下健二
寄附講座	歯科医薬品創生学寄附講座	篠田壽
	口腔ケア推進開発寄附講座	濱田泰三

診療科・部等	科・室等	責任者
口腔育成系診療科	予防歯科 小児歯科 矯正歯科 咬合機能育成室	小関健由 福本照子 山本照子 五十嵐薫
	口腔診断科 顎顔面外科 口腔外科 歯科麻酔疼痛管理科	笹野高嗣 川村仁 越後成志 (兼)越後成志
口腔修復系診療科	保存修復科 咬合修復科	小松正志 木村幸平
	歯内療法科	(兼)佐々木啓一 島内英俊
口腔回復系診療科	咬合回復科 歯周病科 口腔機能回復科	佐々木啓一 島内英俊 (兼)菊池雅彦
特殊治療部	総合歯科診療部 感染予防対策治療部 顎口腔機能治療部 障害者歯科治療部 高齢者歯科治療部 顎口腔再建治療部	菊池雅彦 (併)島内英俊 (併)小松正志 (併)小松正志 (兼)菊池雅彦 (併)佐々木啓一
	臨床検査室 放射線室 病室 手術室 技工室 歯科衛生士室	笹野高嗣 笹野高嗣 川村仁 川村仁 佐々木啓一 島内英俊
中央診療施設		

歯学部附属歯科技工士学校	
校長	菊地正嘉

歯科医療センター患者連携システムの紹介

歯科医療センターでは、地域の歯科医院等の先生方と連携を円滑に行うために、紹介患者さんの診療申込みから返礼までの患者連携システムを見直しました。ご利用方法は、①診療申込書（平成20年度版診療案内か、もしくはホームページに掲載しています）をFAXにてセンターに送信して頂くと、②15分以内を目処にセンターから診療受付票をFAX送信致します。③紹介元の先生は、紹介患者さんに診療受付票・診療情報提供書等を渡して、



④患者さんはセンターを受診して頂きます。センターでは、受診後1週間以内を目処に、担当医から返礼を紹介元の先生方にお送りします。また、ご紹介を受けた処置が終了した場合は、ご連絡を致しますので、その後の処置等、宜しくお願い致します。

なお、この患者連携システム以外に、紹介状を直接お持ちになった患者さんの診療も受け付けています（従来法）。詳細はホームページをご覧ください。

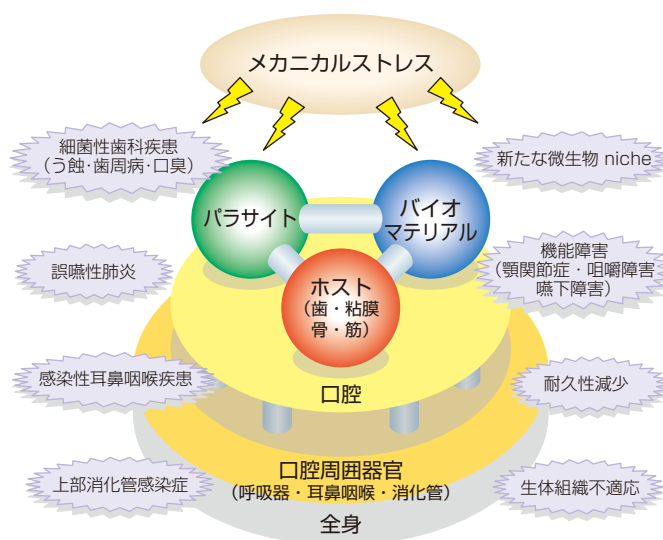
インターフェイス口腔健康科学 (Interface Oral Health Science) —東北大学歯学研究科発 次世代の歯学—

研究科長補佐 高橋 信 博

これまでの歯学は、口腔疾患の治療論を主体とするものであり、その病因論や根本となる基礎歯学は細分化され体系化からはほど遠いものでした。東北大学歯学部は建学の理念「一口腔一単位」を真に実現するためには、細分化された専門分野を繋ぎ、歯学として体系化、すなわち再構築することが不可欠です。

そこで東北大学歯学研究科は、2002年、次世代の歯学として「インターフェイス口腔健康科学 (Interface Oral Health Science)」を提唱しました。それは次に示す概念に立脚します (図)。

- 口腔は、「歯・粘膜・骨・筋等の口腔組織 (ホスト)」、「口腔に寄生する微生物 (パラサイト)」、「バイオマテリアル」の3つのシステムから成り立つ。さらに、この3システムに咬合力に代表される「メカニカルストレス」が加わることが口腔の特徴である。
- 健全な口腔機能は、システムとシステムの接するところ、すなわち3システム間のインターフェイスが生物学的、生体力学的に調和することで成り立つ。う蝕や歯周病、顎関節症などの口腔疾患はこれらシステム間インターフェイスの生物学的、生体力学的破綻によって生ずる「インターフェイス病」として捉えられる。
- また口腔そのものが、外界と体内とのインターフェイスであり、誤嚥性肺炎や消化管感染症等の口腔関連疾患もまたシステム間インターフェイスの破綻に起因するものと解される。



健全な口腔は、各システム間インターフェイスの
生物学的・生体力学的調和の上に成り立つ

この新たな概念は、歯学・歯科医療・口腔保健の全ての領域を網羅するだけでなく、歯学専門分野を有機的に接合し、各専門分野の意義の再考と新たな視点をもたらすこととなりました。さらに、この概念は、歯学・歯科医療・口腔保健だけでなく、医学、農学、材料学、薬学などおよそシステム間インターフェイスを扱う多くの学問領域に通ずるものであり、歯学研究科を基軸とした異分野連携を活性化する契機となりました。

現在、「インターフェイス」をキーワードとする研究が、東北大学医学系研究科、薬学研究科、農学研究科、工学研究科、加齢医学研究所、金属材料研究所等との連携の中で急速に展開しています。2004年からは、この概念に基づいた「インターフェイス口腔健康科学学術フォーラム」を継続的に開催し、研究者、大学院生、学部生との研究交流を深めています。さらに、2005年2月および2007年2月には、本概念に基づいて将来の歯学を考える「インターフェイス口腔健康科学国際シンポジウム」を開催し、それぞれ3本のシンポジウムと70演題を越えるポスター発表が行われ、その結実は英文書籍として上梓するに至りました。2007年には、本概念に基づいた特別教育研究経費「生体・バイオマテリアル高機能インターフェイス科学推進事業 (文部科学省)」が歯学で初めて採択され、現在、歯学研究科を中心に、東北大学金属材料研究所、九州大学応用力学研究所と連携しながら新たな学問の創成を進めています。2008年には、国際歯科研究学会 (IADR) にて「インターフェイス口腔健康科学」をキーワードとしたシンポジウムが組まれるなど、世界ブランドして認識されつつあります。

東北大学大学院歯学研究科発の「インターフェイス口腔健康科学」は、決して歯学の一定領域に特化するものではなく、歯学の持つ「独自性」と「普遍性」を見据えて歯学を再構築し、改めて歯学を網羅しようとする概念です。この概念が、歯学が真に一学問領域として確立するための基盤となること、そして21世紀の歯学・歯科医療・口腔保健の発展のための羅針盤となることを希望します。

掲 示 板

詳細は歯学研究科ホームページ(HP)をご確認下さい。http://www.ddh.tohoku.ac.jp/

平成20年度の主な行事

- 6月27日(金) 第53回東北大学歯学会
- 7月25日(金) 夏休み大学探検2008(仙台市内中学生対象)
- 7月30日(木)・31日(木)
オープン・キャンパス(学部入学志願者対象)
- 8月5日(火)・8日(金)
サイエンス・パートナーシップ・プログラム事業・教員研修(中学校・高等学校教諭対象)
- 10月11日(土)・12日(日)
東北大学ホームカミングデー
- 11月1日(土)・2日(日)
第5回臨床研修指導歯科医講習会
- 12月5日(金) 第54回東北大学歯学会
- 12月6日(土)・7日(日)
第3回InterfaceOHS国際会議・高機能インターフェイス研究事業会議
- 12月26日(金) 仕事納め
- 1月5日(月) 仕事始め
- 2月25日(木)・26日(木)
学部入学一般選抜試験
- 3月25日(木) 卒業式

この他、12月に宮城県乳幼児歯科保健推進者養成研修、3月にTohoku-Forsyth InterfaceOHS Symposium(米国ボストンで開催)を企画しています。

歯学研究科大学院生募集

修士課程6名、博士課程47名を募集致します。社会人大学院生の制度もご活用下さい。

連絡先：教務係(022-717-8248)

■1次募集

- 6月27日(金) 博士・修士課程資格審査関係書類提出期限
- 7月28日(月)～8月1日(金) 入学願書受付
- 8月21日(木) 筆記試験・面接試験

■2次募集

- 10月31日(金) 博士・修士課程資格審査関係書類提出期限
- 12月1日(月)～12月5日(金) 入学願書受付
- 12月25日(木) 筆記試験・面接試験

平成21年度歯科医師臨床研修募集

単独型研修プログラム60名を募集致します。書類締切は8月8日(金)必着です。HP参照。

第5回臨床研修指導歯科医講習会

11月1日(土)・2日(日)に開催される講習会参加者を募集します。書類締切は10月3日(金)必着です。HP参照。

南東北がんプロフェッショナル養成事業・大学院開放講義
がん口腔ケア特別研修
口腔がん検診特別研修 研修生募集

編集後記

—地域歯科保健推進室から—

ニュースレター編集委員長
地域歯科保健推進室長

小 関 健 由

この度、歯学研究科地域歯科保健推進室から、東北大学大学院歯学研究科・歯学部・歯科医療センター・ニュースレターを発行する運びとなりました。この地域歯科保健推進室は、歯学研究科社会貢献委員会の下に平成19年度から歯学研究科に設置された、大学と地域を結ぶ窓口です。

地域歯科保健推進室は、東北一円の歯科保健推進に関わる行政・組織から構成される歯科保健推進ネットワークのキー・ステーションとして、歯科保健に関わる課題を集約・整理・分析し、歯学研究科全体の知の集約をもって対策や解決策を提示するシンクタンクとして機能します。また、地域歯科保健推進室は、歯学研究科に寄せられる情報や要望の窓口として、さらに、東北地方における口腔保健・医療・福祉の推進役を担います。将来的には東北地方の歯科保健に関わる自治体や歯科医師会、教育機関や医療機関の集まるリエゾンオフィスとして機能する歯科保健推進機構に拡大してゆく予定です。

平成19年度には、宮城県と歯科保健特別推進事業に基づく宮城県歯科健診総合推進事業、及び、乳幼児歯科保健推進者養成研修事業を実施し、宮城県内の美里町と登米市と歯科保健推進に関わる提携を結んでいます。さらに、最新歯科医学の専門的情報の専門家への発信や歯科保健に関する地域住民への啓発活動を実施しています。

このニュースレターも、歯学研究科・歯学部・歯科医療センターの情報発信の一翼を担います。より良い紙面を皆さんと作っていきたく考えていますので、紙面についての要望など、是非ともご意見を頂けましたらと思います。これから、どうか宜しくお愛読下さい。

編集委員 小関健由、小山重人、飯久保正弘、高田雄京、戸田孝史

歯学研究科地域歯科保健推進室の設置(平成19年度)

- 地方自治体との連携の推進
 - ・財源/人的支援(自治体)
 - ・政策提言(歯学研究科)
- 歯科医師会との連携
- 地域歯科保健の特徴の分析と把握
- 自治体版健康日本21の推進と評価
- 地域歯科保健推進機構の構築準備(平成21年度)
 - ・地方自治体との連携による構築

地域歯科保健推進ネットワークの構築



東北大学大学院歯学研究科地域歯科保健推進室

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町4番1号

TEL/FAX: 022-717-8318

URL: http://www.ddh.tohoku.ac.jp/ E-mail: newsletter@ddh.tohoku.ac.jp



この印刷物は、環境にやさしい大豆油インキで印刷しています。